

批評と紹介

神奈川縣道路愛護共進會昭和七年度 授賞式

田邊良忠

神奈川縣道路愛護業は其の後益々向上發展し今や殆ど全縣下を通じて參加團體を見るに至り昭和七年度に於ては參加團體四百二十七此の人員五萬三千五百人に達し又其の擔當道路延長は國府縣市町村道を通じ千五百六十軒餘に及び戶主會在郷軍人會青年團消防組小學校兒童に至る迄老若男女を問はず期かな氣分で奉仕作業に従事し本期間の作業延人員は實に十八萬三千二百八十三人を算し其の結果著しく

路面の整備を見るに至り全く面目一新の喜ばしき現象を呈した。

會期終了後土木部長を委員長とする審査委員會に於て審査の結果足柄下郡片浦小學校の生徒より成る少年赤十字團外二百六十三團體及び獎勵規程改正の結果新たに制定された三ヶ年間引續き二等以上の授賞團體一を選び之に功勞旗を授與表彰する事となり六月二十七日同縣々會議事堂に於

て盛大なる授賞式を舉行した、因に同縣民は道路愛護事業の眞精神を克く體得せる爲めか年と共に實蹟擧り本年度も一層馬力を掛け熱心事業に従事して居ると云ふ、同縣の道路が是等奉仕團體の手に據て完全に維持保存されることとなるも左程遠い將來ではあるまい。

式 次

- 一、開式ノ辭 道路課長
- 一、審査報告 審査委員長
- 一、表彰狀授與 片浦村少年赤十字團外六十九團體
- 一、功勞章授與 柿生村、岡上村
- 一、式 辭 知 事
- 一、來賓祝辭 縣會議長
- 一、受賞者總代答辭 片浦少年赤十字團
- 一、閉式の辭 道路改長會長
- 一、寫眞撮影
- 一、午餐會

昭和七年度道路愛護共進會成績表

區域別	種別	參加團體數	參加員人數	國道府縣道	市道町村道	擔當延長	擔當延長	延人員
川崎	崎	七	八、五五	八、一三	三、三六	五、三三	三、三六	一、一八〇
藤澤	澤	六	五、二七	一、五三	八、九三	二、八〇	二、八〇	一、九〇〇
横須賀	賀	四	七、七〇	一、五一	四、〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	三、九七〇
大磯	磯	七	七、六八	六、二五	三、三三	三、九七	三、九七	一、七五
小田原	原	四	一、五九	五、四六	七、三三	二、五九	二、五九	一、八三
厚木	木	六	五、四六	三、一〇	一、八三	一、八三	一、八三	一、八三
松田	田	八	四、六三	八、七四	一、三五	一、八三	一、八三	一、八三
中野	野	三	二、三六	九、四四	一、〇〇	四、九二	一、〇〇	一、六三
横濱	濱	六	四、三三	六、九	一、六三	三、三三	三、三三	一、一五
計		四七	五、五〇〇	四四、八〇	一、一五	二、九七	一、一五	二、九七

擔當延長 一、五六〇、二七七

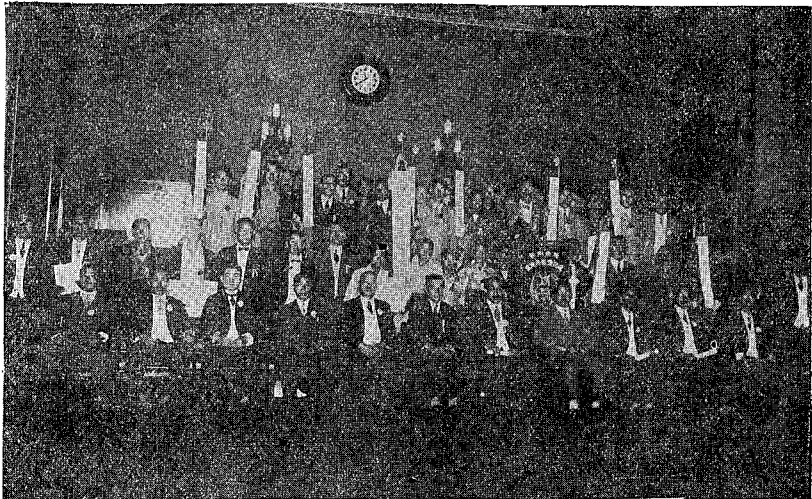
昭和七年度道路愛護共進會授賞團體表 神奈川縣

等級	地方名	市町村名	授賞團體名
一	小田原	片浦村	片浦少年赤十字團
二	川崎	柿生村	柿生村、岡上村
二	藤澤	澁谷村	澁谷村福田部落會
二	横須賀	葉山町	葉山消防組、葉山青年團、在郷軍人會、葉山分會
二	大磯	岡崎村	岡崎村道路愛護會
二	小田原	上府中村	上府中村青年會千代支部

- 二 松田 南足柄村 南足柄村青年團
- 二 厚木 愛川村 愛川村青年團
- 二 中野 大澤村 大澤村青年團
- 二 横濱 水取津町 水取津町戶主會
- 三 川崎 稻田村 稻田町
- 三 同 都田村 東方表根池邊根岸戶主會
- 三 同 日吉村 小倉戶主會
- 三 藤澤 六會村 龜井野戶主會
- 三 同 本郷村 菅谷戶主會
- 三 横須賀 北下浦村 野比戶主會
- 三 大磯 中井村 中井村道路愛護會
- 三 同 豐田村 豐田村道路愛護會
- 三 同 西秦野村 堀西黒木貝畑青年團
- 三 小田原 國府津町 國府津少年赤十字團
- 三 同 足柄村 坊所道路愛護會
- 三 松田 清水村 清水村道路愛護會
- 三 厚木 御所見村 打辰住民會
- 三 同 大野村 大野村青年團鶏ノ森支部
- 三 同 厚木町 仲町道路愛護會
- 三 同 中津村 中津村青年團第三支部
- 三 同 相原村 相原村青年團
- 三 同 澤井村 澤井村青年團
- 三 横濱 鶴見區 下末吉青年團

雜

報



神奈川縣道路愛護共進會授與式

外 四等級 四一 團體 五等級 一九四 團體

受賞者總代として答辭を述べた片浦少年赤十字團は小學校の生徒三百二十人で組織されておる團體であるが學校就學時間の前後の時間を道路の小修繕と掃除に盡したので毎日三百臺の自動車が行通する村道約一萬千メートルの路面は其状態を一變し頗る見事なものと爲した、夫れで二十七日の一等賞を授與せられ優勝旗をも授けられた村の名譽小學校の名譽となつた譯で其狀況は左記の通り放送局で放送せられたことである。

道路を愛護する少年赤十字團 が名譽の旗を受けました

神奈川縣片浦村の少年赤十字團は小學校の生徒さん三百二十人がつくつてゐるのですが、今年二月の末にお話がありました通り、毎日三百臺も自動車が行通る村の道路凡そ一萬一千メートルの間を「私たち少年赤十字團受持の道にしません」ときめて朝學校へ行く前と放課後お家へ歸つてからみんなが鍬、帚などを持つて、道路の凸凹をなほしたり、

お掃除したりして、見違へるやうにきれいな道にしたのでした。

神奈川縣廳では四年前から毎年道路愛護共進會といふものを開いて、道を大切にすることを感心な人々を表彰してゐますが、二十七日その授賞式がございました。今年は全部で二百六十四の感心な團體に、一等から五等までの御褒うびがりましたが、この片浦村少年赤十字團は美事その一等賞になつたのであります。そしては知事さんから優勝旗が授けられました時、居合せた方はみんな感心されたそうです。小學校の名譽、村全體の名譽、神奈川縣一番の名譽を擔つた生徒さん達のよろこびは、どんなであつた事でせう。

巴 藤

旗ふつて群童行くや青嵐

行き行きて道のはてなり雲の峯